

昭和63年度研究部「調査記録の保管・活用法の検討」報告

相 京 邦 彦

本報告は、昭和57年度から開始した研究部事業「調査研究用器材の検討」のまとめである。7年にわたる検討のなかで、すでに報告済みのものもあり、実施されているものもある。今回報告するのは、その中のコンピュータに関する検討の一部である。

第1章 現在までの検討内容

1. 担当調査員と報告内容

a. 昭和57年度研究部担当職員

石田広美, 萬崎博昭, 金丸 誠

報告は2(1)に掲載したとおりである。

b. 昭和58年度研究部担当職員

相京邦彦, 川島利道, 小宮(田中)豪, 田形孝一

報告は2(2)に掲載したとおりである。

c. 昭和59年度研究部担当職員

川島利道, 田形孝一

報告は2(3)に掲載したとおりである。

d. 昭和60年度研究部担当職員

阪田正一, 田形孝一, 金子 進

報告は2(4)に掲載したとおりである。

e. 昭和61年度研究部担当職員

倉内郁子

報告は2(5)に掲載したとおりである。

f. 昭和62・63年度研究部担当職員

相京邦彦

本報告はそのまとめである。

2. 研究成果の発表と文献

(1) 昭和57年度 研究部活動報告

『調査研究用器材の検討』報告

(2) 昭和58年度 研究部活動報告

『調査記録の保管・活用法の検討』報告

(3) 研究連絡誌 第13号 川島利道・田形孝一

『昭和59年度研究部 調査記録の保管・活用法

の検討 報告』

(4) 研究連絡誌 第17号 金子 進

『データベースの作成及びマイクロフィルムの利用法の検討について—昭和60年度研究部「調査記録の保管・活用法の検討」の報告—』

(5) 昭和61年度 研究部活動報告

『調査研究用器材の検討』報告

第2章 文献資料を中心とするコンピュータを利用したデータベースの作成

1. 「考古文献データベース」について

1. 目的

当センターは、昭和49年11月の設立以来、継続して発掘調査を実施してきている。この間の発掘資料は膨大な量にたっしている。整理作業中の資料の保管はいうにおよばず、報告書刊行済みの資料も保管されている。

これら保管資料の中には、貴重な資料も少なくないため、県内博物館から展示目的での借用依頼や、出土地の市町村における広報紙等への掲載や、出版社発行の書籍への掲載依頼が数多くきている。しかし、現状では、保管資料が膨大なために資料全体の管理が必ずしも十分行れているとはいえない。そこで、保管資料の管理及び活用が速やかにできるように、資料もデータベース化し、コンピュータによる管理が必要となってきた。

ここに紹介するものは昭和58・59年度に実施した研究部活動における「調査記録の保管・活用法の検討」を基礎にし、具体的な「考古文献データベース」の作成について記述するものである。

2. 考古文献データベース

発掘調査に伴なって刊行された報告書は膨大な数に達しているため、資料の活用を図る上で報告書をデータベース化することがねらいである。研究部は、過去数年にわたって、報告書のデータベ

ーす化の検討と実際の作業を進めてきた訳であるが、種々の障害があり、思うように進捗していなかった。そこで、昭和62年度から「まとめ」として過年度の成果の再検討を開始し、昭和63年度には具体的なデータ入力作業を開始している。

3. 現在までの検討内容（第1章2研究成果参照）

A. (1)の報告

データベースに関する検討の最初のもので、多くの調査方法を集成検討した。

B. (2)の報告

データシートの作成と基本的な考え方、および、デモンストレーションに重点がおかれ、実際のデータの輸入はほとんどされなかった。

研究成果の報告は、簡易製本され各班に配布された。

C. (3)の報告

(2)の活字製本による報告と、昭和59年度における新規検討事項を、研究連絡誌に発表したものである。その内容は(2)にほぼ重複しており、現在公にされた唯一のものである。

D. (4)の報告

実際の入力に行ったものであるが、「考古文献データベース」の輸入はされなかった。

新規の検討事項として、当センター発行の「年報」をデータベース化して入力している。特記すべきは、事業者、事業名等をコード化し、提示したことにある。データベースソフトとして（株）アスキー社製「imformix」Vor3.3を使用している。

E. 昭和62・63年度の検討の内容

昭和62年度において、実際のデータ入力についてデータ処理を開始したが、分類項目の設定に再検討の必要が生じた。そこで、昭和63年度に再度の検討の結果、基本方針(研究連絡誌13号 P6)に大きな変更はないものの一部に変更が生じた。現在、再検討の結果に基づいて入力を開始している。

2. 具体的な入力について

1. 報告書のデータシート化については、研究連絡誌第13号の掲載したものと同一シートを使用した。データ化（コンピューター入力）にあたっては、昭和62・63年度におこなった再検討の結果、別紙のように変更した。

入力画面1

登録番号	1	分野	考古学	地域	千葉
書名					
著者・編者		巻号	0-	0	発行年
遺跡よみ		出典			
時代		区分			
遺跡					
遺物					
編年		備考・特徴			
書名2					

EDIT I<B:>I考古文献 IRec: 1/219 I ICap

入力画面2

書名		
所属時期		考古学
遺跡分類		
遺構分類		
材質分類		
遺物名		
編年区分		
備考・特徴		
書名2		

EDIT I<B:>I考古文献 IRec: 1/219 I ICap

2. 具体的な入力について

使用コンピュータ及び周辺機器は、下記のとおりである。

A. 日本電気株式会社製の PC-9801vm2

B. プリンターは135桁用のプリンター
PC-PR201H

C. ソフトウェアは

日本アシュトン・デイト株式会社製

「dBASE III PLUS」

(ユーザ登録 3965673)

ロータス社製

「ロータス1-2-3」を使用している。

D. 入力方法等については、下記の使用説明書を作成した。

「dBASE III PLUS 使用説明書」(略)

「ロータス1-2-3 使用説明書」(略)

2. 昭和58年度データシート作成は、当時発表された筑波大学の及川氏を中心としたグループの分類に適合させ、将来的には互換性のあるデータベースにしようとの基本的な考えから作成されたものであった。しかし、この分類項目を採用したデータ化の作業には、多くの問題が生じた。つま

り、分類項目が膨大な数になりデータシート作成においても、膨大な時間と人員を要した。この分類は遺物名にそれぞれの属性を加えて別個の項目としてコード化したものである。具体的には、遺物名は同一でも材質が異なるもの、たとえば、「鏃」には「石鏃」「鉄鏃」「銅鏃」というように、多くの分類項目の設定が必要になってくる。

これは、パーソナルコンピュータの記憶容量ではどうも対応できるものではなく、そのままでは、使用できなかった。

つぎに生じた問題は、データシートの記入方法であった。先土器・縄文・弥生時代の分類については、当初のデータシートの内容で十分対応できたが、古墳時代・古代・中世となると、分類方法が複雑になり、3次元的な記述方法を取らざるをえず、シート記入にあたって混乱をきたした。この混乱は、データシート作成にあたって記入もれ・記入ミスを引き起こしたことが、今回のデータ化(コンピュータ入力)で多数認められた。しかし、この段階で再度原本に当たり確認するという作業は、膨大な時間と人員を要することになるため、実際不可能であった。そこでデータシートを再度

時代区分

分類コード	分類名
10	旧石器時代
20	縄文時代
30	弥生時代
40	古墳時代
50	古代
51	奈良時代
55	平安時代
60	中世
61	鎌倉時代
64	室町時代
67	戦国時代
70	近世
71	安土・桃山時代
75	江戸時代
80	近代
81	明治
82	大正
83	昭和(戦前)
84	昭和(戦後)
99	不明

時代細分

分類コード	分類名
11	草創期
12	早期
13	前期
14	中期
15	後期
16	晩期
17	終末期
21	初頭
31	前葉
32	中葉

分類コード	分類名
33	後葉
41	前半
42	後半
99	不明

遺跡分類

分類コード	分類名	分類細目
10	包蔵地	包蔵地
11	包蔵地	低湿地
20	集落跡	集落跡
21	集落跡	貝塚
22	集落跡	石器集中地点
30	墳墓	
31	墳墓	古墳
32	墳墓	土墳墓
33	墳墓	方形周溝墓
34	墳墓	方形周溝遺構
40	宗教遺跡	
41	宗教遺跡	寺院
42	宗教遺跡	経塚
43	宗教遺跡	神社
50	城館跡	
60	官衛跡	官衛跡
61	官衛跡	国衛
62	官衛跡	郡衛
70	生産遺跡	生産遺跡
71	生産遺跡	水田跡
72	生産遺跡	須恵器窯
73	生産遺跡	瓦窯跡
74	生産遺跡	製鉄跡
75	生産遺跡	塩田跡
76	生産遺跡	桑里
77	生産遺跡	牧
90	その他	その他
91	その他	沈没船

遺構分類

分類コード	分類名	ヨ	ミ
10	住居	ジュウキョ	
11	堀立柱建物跡	ホッタチ	
12	礎石	ソセキ	
13	柱穴	チュウケツ	
14	杭列	クイレツ	
20	礫群	レキグン	
21	炉	ロ	
22	貯蔵穴	チョゾウケツ	
23	土壇	ドコウ	
24	溝	ミゾ	
25	井戸	イド	
26	環濠	カンゴウ	
27	土塁	ドルイ	
30	基壇	キダン	
31	築地	ツイジ	
32	柵	サク	
33	庭園	テイエン	
40	水田	スイデン	
41	条里	ジョウリ	
42	条坊	ジョウボウ	
43	畦畔	ゲイハン	
44	道	ミチ	
50	生産	セイサン	
51	須恵器窯	スエガマ	
52	土師器窯	ハジガマ	
53	炭窯	スミガマ	
54	工房跡	コウボウシ	
55	採掘跡	サイクツコウ	
56	精練炉	セイレンロ	
57	鍛冶炉	カジロ	
58	鉄滓廃棄場	テツサイ	
60	祭祀遺構	サイシイコウ	
61	石搭	セキトウ	
62	石仏	セキブツ	
63	塚	ツカ	
70	墓(土壇/古墳)	ハカ	
71	古墳(墳丘)	コフン	
72	古墳(石室)	セキシツ	
73	古墳(石棺墓)	セキカンボ	
74	古墳(木棺墓)	モクカンボ	
75	古墳(土器棺墓)	ドキカンボ	
76	古墳(周溝墓)	シュウコウボ	
77	土壇墓/直葬墓	ドコウボ	
78	木棺墓	モクカンボ	
79	土器棺墓	ドキカンボ	
80	円墳	エンブン	
81	方墳	ホウブン	
82	前方後円墳	ゼンボウコウエン	
83	前方後方墳	ゼンボウコウホウ	
84	前方後方型	コウホウガタ	
85	帆立貝型	ホタテガイ	
89	その他	ソノタ	
90	周溝墓	シュウコウボ	
91	方形周溝墓	ホウケイシュウコウ	
92	円形周溝墓	エンケイシュウコウ	
99	不明	フメイ	

材質分類

分類コード	分類名	ヨ	ミ
10	土製品	ドセイヒン	
20	石製品	イシセイヒン	
30	木製品	モクセイヒン	
40	銅製品	ドウセイヒン	
45	鉄製品	テツセイヒン	
50	ガラス製品	ガラスセイヒン	
61	骨角製品	コウカクセイヒン	
62	貝製品	カイセイヒン	
63	紙製品	カミセイヒン	
65	皮製品	カワセイヒン	
71	動物遺存体/人骨	ドウブツ	
72	植物遺存体	ショクブツ	
73	自然遺物	シゼンイブツ	
99	不明	フメイ	

遺物分類
土製品

*は大別分類(不明の場合を含む)

分類コード	分類名	ヨ	ミ
1100	*土器	ドキ	
1101	甕	カメ	
1102	鉢	ハチ	
1103	壺	ツボ	
1104	埴	カン	
1106	小型丸底土器	コガタマルソコドキ	
1107	椀(土)	ワン(ド)	
1108	高坏	タカツキ	
1109	坏	ツキ	
1110	坏身	ツキミ	
1111	坏蓋	ツキフタ	
1112	器台	キダイ	
1113	支脚	シキヤク	
1114	蓋	フタ	
1115	甌	ハツウ	
1116	堤瓶	サゲベ	
1117	横瓶	ヨコベ	
1118	平瓶	ヒラベ	
1119	瓶	ビン	
1120	皿	サラ	
1121	盤	パン	
1122	甌	コシキ	
1133	硯	スズリ	
1134	合子	ゴウス	
1166	仏具(土)	ブツグ(ド)	

1200	*土製品	ドセイヒン	
1201	土版	ドバン	
1202	土錘	ドスイ	
1203	土彈	ドダン	
1204	紡錘車(土)	ボウスイシャ(ド)	
1205	土笛	ツチブエ	
1206	石冠形土製品	セツカンガタドセイヒン	
1207	有孔土製円板	ユウコウドセイエンバン	
1208	円板形土製品	エンバンガタドセイヒン	
1209	スタンプ形土製品	スタンプガタドセイヒン	
1210	分銅形土製品	ブンドウガタドセイヒン	
1211	三角形土製品	サンカクガタドセイヒン	
1212	土製模造品	ドセイモゾウヒン	
1213	耳飾	ミミカザリ	
1214	勾玉(土)	マガタマ(ド)	
1215	土玉	ドダマ	
1216	管玉	クダタマ	
1217	丸玉(土)	マルダマ(ド)	
1218	垂飾	スイショク	
1219	耳栓	ジゼン	
1220	土鈴	ドレイ	
1221	ミニチュア土器	ミニチュアドキ	
1222	仏像(土)	ブツゾウ(ド)	

1300	*瓦	カワラ	
1301	せん	セン	
1302	瓦経	ガキョウ	
1303	軒丸瓦	ノキマルガワラ	
1304	軒平瓦	ノキヒラガワラ	
1305	丸瓦	マルガワラ	
1306	平瓦	ヒラガワラ	
1307	鬼瓦	オニガワラ	
1308	鴟尾	シビ	
1309	熨斗瓦	ノシガワラ	
1310	面土瓦	メンドガワラ	
1311	錐先瓦	タルサキガワラ	
1312	雁振瓦	ガンブリガワラ	
1313	棧瓦	センガワラ	
1314	軒棧瓦	ノキセンガワラ	
1315	蛸羽瓦	ロウウガワラ	
1316	隅木蓋瓦	スミキブタガワラ	
1317	師子口	シシグチ	
1318	鳥衾	トリブスマ	
1319	留蓋	トメフタ	
1320	文字瓦	モジガワラ	
1321	瓦搭	ガトウ	

分類コード	分類名	ヨ	ミ
1400	*土 偶	ドグウ	

1500	*埴 輪	ハニワ	
1501	円筒埴輪	エントウハニワ	
1502	朝顔型埴輪	アサガオガタハニワ	
1503	家型埴輪	イエガタハニワ	
1504	器材埴輪	キザイハニワ	
1505	動物埴輪	ドウブツハニワ	
1506	人物埴輪	ジンブツハニワ	

石 製 品

2100	*石 器	セッキ	
2200	*打製石器	ダセイセッキ	
2300	*磨製石器	マセイセッキ	
2400	*石製模造品	セキセイモゾウヒン	
2500	*石製容器	セキセイヨウキ	
2600	*石製装飾品	セキセイソウショクヒン	
2700	*石製品	セキセイヒン	

木 製 品

3100	*木製品	モクセイヒン	
3200	*木製模造品	モクセイモゾウヒン	

青銅製品

4100	*青銅器	セイドウキ	
4101	銅 鐸	ドウタク	
4102	銅 鉢	ドウホコ	
4103	銅 戈	ドウカ	
4104	銅 劍	ドウケン	
4105	銅 鏃	ドウゾク	
4106	銅 刀	ドウトウ	
4107	巴形銅器	トモエガタドウキ	
4108	筒形銅器	トモエガタドウキ	
4109	銅 鏡	ドウキョウ	
4110	鈴 (銅)	スズ (ドウ)	

鉄 製 品

4200	*鉄 器	テッキ	
4201	鋤先 (鉄)	スキサキ (テツ)	
4202	鍬先 (鉄)	クワサキ (テツ)	
4203	犁先 (鉄)	スキサキ (テツ)	
4204	鉄斧 (鉄)	テツオノ (テツ)	
4205	やりがんな (鉄)	ヤリガンナ (テツ)	
4206	鑿	ノミ (テツ)	
4207	鎌 (鉄)	カマ (テツ)	
4208	ひる鎌 / 手鎌	ヒルガマ (テツ)	
4208	手鎌 / ひる鎌	テガマ (テツ)	
4209	手斧 (鉄)	テツオノ (テツ)	
4210	錐 (鉄)	キリ (テツ)	
4211	鉄 (鉄)	ハサミ (テツ)	
4212	鉄鉗 (鉄)	カナハシ	
4213	鉄 床	カナトコ	
4214	鉄 釘 (鉄)	クギ (テツ)	
4215	鋸 (鉄)	ノコギリ (テツ)	
4216	たがね	タガネ	
4217	銚	モリ	
4218	やす	ヤス	
4219	釣 針	ツリバリ	
4220	刀 子	トウス	
4221	鍋	ナベ	
4222	鉄 戈	テツカ	
4223	鉄 刀	テツトウ	
4224	鉄 劍	テツケン	
4225	鉄 鏃	テツゾク	
4226	槍 先	ヤリサキ	
4227	鉄 鉢	テツホコ	
4228	甲 / 鎧	ヨロイ	
4229	胃 / 兜	カブト	
4230	鏡	アブミ	
4231	轡	クツワ	
4232	雲 珠	ウズ	
4233	杏 葉	ギョウヨウ	

分類コード	分類名	ヨ	ミ
4234	鈴 (鉄)	スズ (テツ)	
4235	辻金具	ツジカナダ	
4236	三環鈴	サンカンレイ	
4237	鐔	ツバ	
4238	鉄 銭	テッセン	
4239	鉄 鏡	テッキョウ	
4240	鉄てい	テツテイ	

銅 製 品

4300	*銅 器	ドウキ	
4301	腕 (銅)	ワン (ドウ)	
4302	経筒 (銅)	キョウツツ	
4303	仏具 (銅)	ブツグ	

鉄 製 品

4400	*金属器	キンゾクキ	
4900	*金属馬具	キンゾクキバグ	

ガラス製品

5100	*ガラス製品	ガラスセイヒン	
5101	勾玉 (ガ)	マガタマ (ガ)	
5102	丸玉 (ガ)	マルダマ (ガ)	
5103	連結丸玉 (ガ)	レンケツマルダマ (ガ)	
5104	管玉 (ガ)	クダタマ (ガ)	
5105	なつめ玉 (ガ)	ナツメダマ (ガ)	
5106	小玉 (ガ)	コダマ (ガ)	
5107	切小玉 (ガ)	キリコダマ (ガ)	
5108	花形玉 (ガ)	ハナガタダマ (ガ)	
5109	粟玉 (ガ)	アワダマ (ガ)	
5110	とんぼ玉 (ガ)	トンボダマ (ガ)	
5111	吹玉 (ガ)	フキダマ (ガ)	
5112	雁木玉 (ガ)	ガンギダマ (ガ)	
5113	塞扨 (ガ)	ソクカン (ガ)	

未分類

6100	*骨角器	コッカクキ	
6200	*貝製品	カイセイヒン	
6300	*紙製品	カミセイヒン	
6400	*繊維製品	センセイヒン	
6500	*皮革製品	ヒカクセイヒン	

動物遺物

7100	*動物遺物	ドウブツイブツ	
7101	人 骨	ジンコツ	
7102	骨 (動物)	ホネ (ドウブツ)	
7103	皮	カワ	
7104	毛 髪	モウハツ	
7105	歯 牙	シガ	
7106	爪	ツメ	
7107	貝 殻	カイガラ	
7108	棘 / 刺	トゲ	
7109	甲 羅	コウラ	
7110	鱗	ウロコ	
7111	糞 石	フンセキ	

植物遺物

7200	*植物遺物	ショクブツイブツ	
7201	種 子	シュシ	
7202	根	ネ	
7203	茎	クキ	
7204	樹 枝	ジュシ	
7205	樹 幹	ジュカン	
7206	樹 皮	ジュヒ	
7207	プラントオパール	プラントオパール	
7208	花 粉	カフン	

鉱物遺物

7300	*鉱物遺物	コウブツイブツ	
------	-------	---------	--

作成しなおすことで記入もれ・記入ミスをチェックすることとした。再検討にあたって、分類はできるだけ少なく、また、単純な形とすることにとめた。

4. 前述したとおり、先土器時代から弥生時代までは、基本的には当初の分類シートを使用した。古墳時代以降については、再度シートを作り直すことにした。また、分類項目の設定も再検討を実施した。古墳時代以降の分類設定は、弥生時代の分類項目と同様に「材質分類」と「遺物名(用途分類)」を基準とした分類方法の2本立てとした。その「分類項目」は、下記のとおりである。

5. 入力方法と表示

我々が確認できる最もわかりやすく認識できる

「有舌尖頭器」を掲載する報告書の検索とプリント

ページ番号 1

```

=====
      考古学 DATA BASE
=====

```

番号	時代区分	時代細分	遺物分類	器種分類	属性分類
C500-26	2 0	1 1	石製品	有舌尖頭器	
C500-26㉑	2 0	1 1	石製品	有舌尖頭器	隆起線文
C500-26㉒	2 0	1 1	石製品	有舌尖頭器	爪形文
C500-26㉓	2 0	1 1	石製品	有舌尖頭器	無文
C500-26㉔	2 0	1 1	石製品	有舌尖頭器	押圧縄文
C500-26㉕	2 0	1 2	石製品	有舌尖頭器	瓦島
C500-26㉖	2 0	1 5	石製品	有舌尖頭器	加曾利B

「磨石」を掲載する報告書の検索とプリント

ページ番号 1

```

=====
      考古学 DATA BASE
=====

```

番号	時代区分	時代細分	遺物分類	器種分類	属性分類
C500-26	2 0	1 1	石製品	磨石	
C500-26㉑	2 0	1 1	石製品	磨石	隆起線文
C500-26㉒	2 0	1 1	石製品	磨石	爪形文
C500-26㉓	2 0	1 1	石製品	磨石	無文
C500-26㉔	2 0	1 1	石製品	磨石	押圧縄文
C500-26㉕	2 0	1 1	石製品	磨石	爪形文
C500-26㉖	2 0	1 1	石製品	磨石	押圧縄文
C500-26㉗	2 0	1 2		磨石	鵜ヶ島台
		1 2		磨石	

「鵜ヶ島台期」で「磨石」を掲載する報告書の検索とプリント

ページ番号 1

```

=====
      考古学 DATA BASE
=====

```

番号	時代区分	時代細分	遺物分類	器種分類	属性分類
C500-26㉗	2 0	1 2	石製品	磨石	鵜ヶ島台

分類方法は、漢字・ひらがななどによる文字による表示である。しかし、漢字・ひらがなの入力には多くの時間と人員が必要であり、単純な項目については可能な限り、コード化することとした。このコード化については、すでに文献(4)で、金子が実施したことがあり一部使用した。

また、時代区分・時代細分などは新規に、「遺物名」は、前述した及川氏の分類を参考にしながら作成した。

6. 成果と実際例

データの入力画面と、検索したデータの出力例は次のとおりである。

「縄文時代(20)前期(13)」に関する報告書の検索とプリント

ページ番号 1

=====
考古学 DATA BASE
=====

番 名	時代区分	時代細分	遺物分類	器種分類	福年分類
C500-26	2 0	1 3	土製品	土器	岡山
C500-26	2 0	1 3	土製品	土器	黒沢
C500-26	2 0	1 3	土製品	土器	樋房
C500-26	2 0	1 3	土製品	土器	猪俣 a
C500-26	2 0	1 3	土製品	土器	猪俣 b
C500-26	2 0	1 3	土製品	土器	猪俣 c
C500-26	2 0	1 3	土製品	土器	十三善庵
C500-26	2 0	1 3	土製品	土器	浮島
C500-26	2 0	1 3	土製品	土器	興津
C500-26	2 0	1 3	土製品	土器	北白川下層 II c
C500-26①	2 0	1 3	土製品	土器	浮島
C500-26②	2 0	1 3	土製品	土器	浮島
C500-26③	2 0	1 3	土製品	土器	興津
C500-26④	2 0	1 3	土製品	土器	岡山
C500-26⑤	2 0	1 3	土製品	土器	黒沢
C500-26⑥	2 0	1 3	土製品	土器	猪俣 a
C500-26⑦	2 0	1 3	土製品	土器	猪俣 b
C500-26⑧	2 0	1 3	土製品	土器	猪俣 c
C500-26⑨	2 0	1 3	土製品	土器	十三善庵
C500-26⑩	2 0	1 3	土製品	土器	樋房
C500-26⑪	2 0	1 3	土製品	土器	北白川下層 II c
C500-26⑫	2 0	1 3	土製品	土器	興津
C500-26⑬	2 0	1 3	土製品	土器	浮島

ページ番号 2

=====
考古学 DATA BASE
=====

番 名	時代区分	時代細分	遺物分類	器種分類	福年分類
C500-26⑭	2 0	1 3	土製品	土器	樋房
C500-26⑮	2 0	1 3	土製品	土器	十三善庵
C500-26⑯	2 0	1 3	土製品	土器	猪俣 a
C500-26⑰	2 0	1 3	土製品	土器	猪俣 b
C500-26⑱	2 0	1 3	土製品	土器	猪俣 c
C500-26⑲	2 0	1 3	土製品	土器	黒沢
C500-26⑳	2 0	1 3	土製品	土器	岡山

「加曾利E」の検索とプリント

ページ番号 1

=====
考古学 DATA BASE
=====

番 名	時代区分	時代細分	遺物分類	器種分類	福年分類
C500-26	2 0	1 4	土製品	土器	加曾利 E
C500-26①	2 0	1 4	土製品	土器	加曾利 E
C500-26②	2 0	1 4	土製品	土器	加曾利 E
C500-26③	2 0	1 4	石製品	打製石斧	加曾利 E
C500-26④	2 0	1 4	石製品	石鏃	加曾利 E
C500-26⑤	2 0	1 4	石製品	礮石	加曾利 E
C500-26⑥	2 0	1 4	土製品	土器	加曾利 E
C500-26⑦	2 0	1 4	土製品	土器	加曾利 E

7. データベースの構築

この「考古学文献データベース」は、当センターが県教育委員会から委託されて作成した「千葉県埋蔵文化財分布地図」と一連のものとし、「分布地図データベース」及び「センター所蔵の調査報告書（蔵書図書目録）」（第2章3）と、3つのデータベースを結合させるものとして進めている。このうち、「千葉県埋蔵文化財分布地図索引の作成」と同一のものである。

3. 現在並行して作成中の関連データベース

1. 重要遺物・遺物写真等の所蔵目録及び所在目録

2. 蔵書図書目録のデータ化

a. 当センターは千葉県内において有数の考古学関係の文献を蔵書している。この蔵書を有効に活用を図るためには、蔵書目録の完備が必要不可欠である。

そこで、蔵書目録の作成をはじめ、先述した考古データベースと連絡したものを作成している。入力データは「千葉県文化財センター蔵書目録Ⅰ」を使用している。

b. 成果と実際例

データの入力画面と、検索したデータの出力例は次のとおりである。

4. 今後必要な関連データベース

1. 遺物データベース

当センターも設立以来10年余がすぎ、発掘調査した遺物の量は膨大な量に達している。また、当

入力画面

市町村コード		報告書番号	
--------	--	-------	--

書名	
書名2	
発行所	
発行年	
備考	

センターが千葉県において調査研究の中心的役割をはたしている関係上、調査資料の管理及び活用について十分な対応を要求されている。そこで具体的な対応策として「遺物のデータベース」の作成が必要である。

第3章 マイクロフィルム化について、目録の作成

1. 目的

昭和57～59年度における研究部活動「調査記録の保管・活用」において、調査現場で作成した原図の収納について、下記の報告がなされ、一部が実施されている。（第1章参考文献参照）

A. 原図（遺構図面・遺物実測図等）については、マイクロフィルム化し、1部はロールフィルムとして、また1部はアパッチュカードとして保管すること。

B. マイクロフィルム化した原図については、将来的に廃棄の方向で検討すること。

C. アパッチュカードはリーダー（拡大機）を使用し、原寸の図面が必要な場合はロールフィルムから図面を作成し使用すること。

以上の作業について一部は実施されたが、アパッチュカードを原寸に拡大するにリーダープリンターの性能に若干の問題がみられた。それは、月平均で約1,000枚以上の使用がないと、予算的にメリットがないこと、図面に多少のゆがみが生じ、元の縮尺に拡大することが期待どおりにできなかったことである。そこで、昭和58年度段階でのリーダープリンター導入はみおくれた。

== 県内発行報告書一覧 ==
== (財)千葉県文化財センター ==

市町村コード 番号 書名 発行年 発行所 備考

C500	1	埋蔵物	1979.3	千葉県	教育委員会	会
C500	2	埋蔵物	1983.3	千葉県	教育委員会	会
C500	3	埋蔵物	1971.3	千葉県	教育委員会	会
C500	4	埋蔵物	1978.3	千葉県	教育委員会	会
C500	5	埋蔵物	1959.3	千葉県	教育委員会	会
C500	6	埋蔵物	1972.3	千葉県	教育委員会	会
C500	7	埋蔵物	1981.3	千葉県	教育委員会	会
C500	8	埋蔵物	1982.3	千葉県	教育委員会	会
C500	9	埋蔵物	1983.3	千葉県	教育委員会	会
C500	10	埋蔵物	1974.3	千葉県	教育委員会	会
C500	11	埋蔵物	1978.3	千葉県	教育委員会	会
C500	12	埋蔵物	1961.10	千葉県	教育委員会	会
C500	13	埋蔵物	1964.3	千葉県	教育委員会	会
C500	14	埋蔵物	1965.3	千葉県	教育委員会	会
C500	15	埋蔵物	1966.3	千葉県	教育委員会	会
C500	16	埋蔵物	1966.3	千葉県	教育委員会	会
C500	17	埋蔵物	1977.2	千葉県	教育委員会	会
C500	18	埋蔵物	1976.2	千葉県	教育委員会	会
C500	19	埋蔵物	1979.3	千葉県	教育委員会	会
C500	20	埋蔵物	1979.3	千葉県	教育委員会	会
C500	21	埋蔵物	1980.3	千葉県	教育委員会	会
C500	22	埋蔵物	1981.3	千葉県	教育委員会	会
C500	23	埋蔵物	1983.3	千葉県	教育委員会	会
C500	24	埋蔵物	1974.3	千葉県	教育委員会	会
C500	25	埋蔵物	1975.3	千葉県	教育委員会	会
C500	26	埋蔵物	1976.4	千葉県	教育委員会	会
C500	27	埋蔵物	1976.3	千葉県	教育委員会	会
C500	28	埋蔵物	1978.12	千葉県	教育委員会	会
C500	29	埋蔵物	1982.2	千葉県	教育委員会	会
C500	30	埋蔵物	1982.6	千葉県	教育委員会	会
C500	31	埋蔵物	1973.6	千葉県	教育委員会	会
C510	1	埋蔵物	1975.3	千葉県	教育委員会	会
C510	2	埋蔵物		千葉県	教育委員会	会
C510	3	埋蔵物		千葉県	教育委員会	会
C510	4	埋蔵物		千葉県	教育委員会	会
C510	5	埋蔵物		千葉県	教育委員会	会
C510	6	埋蔵物		千葉県	教育委員会	会
C510	7	埋蔵物		千葉県	教育委員会	会
C510	8	埋蔵物		千葉県	教育委員会	会
C510	9	埋蔵物		千葉県	教育委員会	会
C510	10	埋蔵物		千葉県	教育委員会	会
C510	11	埋蔵物		千葉県	教育委員会	会
C510	12	埋蔵物		千葉県	教育委員会	会
C510	13	埋蔵物		千葉県	教育委員会	会
C510	14	埋蔵物		千葉県	教育委員会	会
C510	15	埋蔵物		千葉県	教育委員会	会
C510	16	埋蔵物		千葉県	教育委員会	会
C510	17	埋蔵物		千葉県	教育委員会	会
C510	18	埋蔵物		千葉県	教育委員会	会
C510	19	埋蔵物		千葉県	教育委員会	会
C510	20	埋蔵物		千葉県	教育委員会	会
C510	21	埋蔵物		千葉県	教育委員会	会
C510	22	埋蔵物		千葉県	教育委員会	会
C510	23	埋蔵物		千葉県	教育委員会	会
C510	24	埋蔵物		千葉県	教育委員会	会
C510	25	埋蔵物		千葉県	教育委員会	会
C510	26	埋蔵物		千葉県	教育委員会	会
C510	27	埋蔵物		千葉県	教育委員会	会
C510	28	埋蔵物		千葉県	教育委員会	会
C510	29	埋蔵物		千葉県	教育委員会	会
C510	30	埋蔵物		千葉県	教育委員会	会
C510	31	埋蔵物		千葉県	教育委員会	会
C510	32	埋蔵物		千葉県	教育委員会	会
C510	33	埋蔵物		千葉県	教育委員会	会

このように、当センターでは、現場で作成した原図をアパッチュアカード化し、収納することを原則としているが、カード化したものは縮小されているために、必要なカードを瞬時に検索できない。そこでデータベース化することによって、検索等を簡単にでき整理作業に利用することを目的としたものである。現在、入力項目等の検討は終了し、実際のデータ入力の段階に入っている。アパッチュアカード化は膨大な原図収納スペースの削減と、従来整理作業において原図を直接使用した作業が不用になり、作業スペースが少なくてすむところにメリットがある。しかし、拡大機の導入については、拡大再生に関して多々の問題が存在しており、前述したとおりの理由で現在見送られている。しかし、県立中央博物館では、このリーダープリントを導入して利用されている。

2. 現在進めている作業

アパッチュアカードの保管目録及びアパッチュアカードのデータ入力を行っている。

3. 成果と実際例

データの入力画面と、検索したデータ出力例は次のとおりである。

4. 今後必要なデータベース

A. 図面台帳データベース

現場で作図した図面を、遺跡・遺構などのデータ別に分類・整理し、必要な図面を瞬時に検索し、利用するというものである。重複のはげしい遺跡では、同一図面に複数の遺構を図化しているが、利用の際に必要な図面を検索しづらい面があり、このシステムが完備すれば混乱はなくなり、整理作業の効率は高まるものと思われる。千原台地区

入力画面1

ファイル_NO,	遺跡コード	222-001	事業名	県教育委員会	調査年次	1978
報告書名	我孫子市日秀西遺跡発掘調査報告書					
イセキメイ 遺跡名	ヒビリニシ 日秀西					
所在地	我孫子市日秀3001					
図面番号	1- 1	MICRO作成年次	1982	担当者	掘部	
遺構名	001住	グリット名		縮尺	1 / 20	
図面内容	平面図					
原図保管所	風土記の丘		F保管場所1	本部		
備考						

EDIT

!<B:>!MICR

!Rec: 1/417

!

!Cap

入力画面2

報告書名	我孫子市日秀西遺跡発掘調査報告書					
図面番号	1- 1	縮尺	1/	20		
遺構名	001住	グリット名				
図面内容	平面図					
遺跡名	日秀西	ヨ	ミ	ヒビリニシ		
備考						

EDIT

!<B:>!MICR

!Rec: 1/417

平面図のカード一覧の一部

アパッチユアカード
台帳

事業者名	遺跡名	調査年次	遺構名	グロット名	図面番号	一枚番	縮尺	1/ 図面内容
県教育委員会	日秀	1978	001住		1	1	20	平面図
県教育委員会	日秀	1978	001住		2	2	20	平面図
県教育委員会	日秀	1978	002A住		11	1	20	平面図
県教育委員会	日秀	1978	002A住		12	2	20	平面図
県教育委員会	日秀	1978	002B住		30	1	20	平面図
県教育委員会	日秀	1978	002B住		31	2	20	平面図
県教育委員会	日秀	1978	003A住		37	1	20	平面図
県教育委員会	日秀	1978	003A住		38	2	20	平面図
県教育委員会	日秀	1978	003B住		51	0	20	平面図
県教育委員会	日秀	1978	004住		55	1	20	平面図
県教育委員会	日秀	1978	004住		56	2	20	平面図
県教育委員会	日秀	1978	004住		57	3	20	平面図
県教育委員会	日秀	1978	004住		57	4	20	平面図

「千葉」を冠するカード一覧の一部

アパッチユアカード
台帳

事業者名	遺跡名	調査年次	遺構名	グロット名	図面番号	一枚番	縮尺	1/ 図面内容
千葉県協議会	千葉市	1976	千葉市		1	0	25000	千葉県埋蔵文化財分布図
千葉県協議会	千葉市	1976	千葉市		2	1	25000	千葉県埋蔵文化財分布図
千葉県教育委員会	千葉市下総清川	1984	千葉市下総清川		17	60	25000	千葉県埋蔵文化財分布地図
千葉県教育委員会	佐原西部	1984	佐原西部		18	60	25000	千葉県埋蔵文化財分布地図
千葉県教育委員会	佐原東部	1984	佐原東部		19	60	25000	千葉県埋蔵文化財分布地図
千葉県教育委員会	神栖	1984	神栖		20	60	25000	千葉県埋蔵文化財分布地図
千葉県教育委員会	新東京国際空港	1984	新東京国際空港		26	60	25000	千葉県埋蔵文化財分布地図
千葉県教育委員会	岩部	1984	岩部		27	60	25000	千葉県埋蔵文化財分布地図
千葉県教育委員会	岩部	1984	岩部		27	60	25000	千葉県埋蔵文化財分布地図

川焼台遺跡及び東南部地区御塚台遺跡で具体的に検討し、作業を一部進めている。

使用ソフトは「ロータス 1 - 2 - 3」を使用しているが、入力した段階で「dBASE III PLUS」に移植している。

第4章 千葉県埋蔵文化財分布地図索引の作成

1. 目的

千葉県埋蔵文化財分布地図は昭和62年度で刊行が終了した。この台帳に記載された遺跡名・所在地・時期区分・性格等のデータをコンピュータに入力し、問い合わせ等に速やかに答えられるようにし、併せて追加・修正を行い常に最新の遺跡台帳を整備しようとするものである。

2. 現在の作業

千葉県埋蔵文化財分布地図をもとに、データの入力方法等は第1章に準じている。また、入力に関しては、別紙「dBASE III PLUS 使用説明書」に準じている。現在までに約500遺跡のデータを入力した。

3. 今後の作業

「千葉県埋蔵文化財分布地図」には「遺跡名」の「ヨミ」が記載されていない。遺跡の検索にあたって「遺跡名よみ」は不可欠である。そこで、入力画面には、「遺跡名ヨミ」の項目を設定し、入

力することとした。入力にあたって「遺跡名」の性格な「ヨミ」の確定が必要である。そこで、角川書店発行「日本地名辞典一千葉」をもとにして索引を作成し、「ヨミ」不明な遺跡については、市町村教育委員会に直接問い合わせる必要がある。

4. 成果と実際例

データの入力画面と、検索したデータの出力例は次のとおりである。

第5章 まとめ

以上が研究部における検討の成果であるが、当初の計画のほんの一部が達成できただけであるが、方向性だけは出せたものと考えている。担当した調査研究員の意にそぐわないところもあるかもしれないが、最終報告である本報告の責はすべて相京にある。

今後に残された最大の問題は、入力を行うオペレータの確保と最新データの収集と思われる。今回報告したデータベースは常に最新データの入力を行うことによってデータベースとしての価値が最大限に生かされるものであり、常に最新データを収集する必要がある。今後とも、継続して新データの収集と入力を進めて欲しいものである。
(現職 財団法人 香取都市文化財センター)

入力画面

遺跡名	野田貝塚						
よみ	ノタカイツカ						
所在地	野田						
種別	貝塚	巻	1	地図番号	5	遺跡番号	83
台帳頁	3	備考	県指定				
時代							
遺構・遺物							
立地・現状	県台帳						
書名	2						

千葉県埋蔵文化財分布地図
昭和60年-昭和63年

遺跡名	ヨ	ミ	市町村	種別	巻	地図番号	遺跡番号	台帳頁	備考
野田貝塚	ノ	タ	野田市	貝塚	1	5 83	3	定指	
山崎貝塚	ヤマザキ	キ	野田市	貝塚	1	6 119	4	定指	
谷山貝塚	ホリノウチ	ノ	川崎市	貝塚	1	22 13	54	形指	
崎貝塚	ソノ	カ	川崎市	貝塚	1	30 60	56	形指	
崎貝塚	ウハ	ヤマ	志賀市	貝塚	1	30 119	58	形指	
の郎貝塚			野田	貝塚	1	31 13	112	定指	
如倉貝塚			佐原	貝塚	2	18 8	1	定指	
小油貝塚			神崎	貝塚	2	18 12	16	定指	
玉文貝塚			原	貝塚	2	19 84	3	定指	
山津貝塚			原	貝塚	2	19 90	3	定指	
橋貝塚			原	貝塚	2	19 99	3	定指	
榎貝塚			佐	貝塚	2	19 138	4	定指	
余谷貝塚			山	貝塚	2	27 1	39	定指	
榎貝塚			小見	貝塚	2	28 152	23	定指	
橋貝塚			川	貝塚	2	28 160	23	定指	
榎貝塚			小	貝塚	2	31 43	101	定指	
榎貝塚			銚子	貝塚	2	36 43	101	定指	
榎貝塚			銚子	貝塚	2	37 160	101	定指	
榎貝塚			銚子	貝塚	2	40 137	53	定指	
榎貝塚			銚子	貝塚	2	41 2	53	定指	
加賀貝塚	ツウ	ハ	千葉市	貝塚	2	41 2	56	定指	調査
東荒屋敷	カ	シ	千葉市	貝塚	2	41 300	57	定指	調査
荒屋敷	ヒ	カ	千葉市	貝塚	2	41 346	57	定指	調査
荒屋敷	アラ	ヤ	千葉市	貝塚	2	41 349	58	定指	調査
荒屋敷	アラ	ヤ	千葉市	貝塚	2	41 349	58	定指	調査
荒屋敷	アラ	ヤ	千葉市	貝塚	2	41 404	59	定指	調査
荒屋敷	ヤ	ハ	千葉市	貝塚	2	41 475	61	定指	調査
荒屋敷	カ	カ	千葉市	貝塚	2	41 581	64	定指	調査
荒屋敷	オ	オ	千葉市	貝塚	2	41 592	64	定指	調査
荒屋敷	カン	ノ	千葉市	貝塚	2	41 594	54	定指	調査
荒屋敷	ツ	キ	千葉市	貝塚	2	41 64	597	定指	調査
荒屋敷	エ	ノ	千葉市	貝塚	2	47 719	67	定指	調査
荒屋敷	ツ	キ	千葉市	貝塚	2	47 767	68	定指	調査
荒屋敷	カ	ミ	千葉市	貝塚	2	47 857	70	定指	調査

千葉県埋蔵文化財分布地図
昭和60年-昭和63年

遺跡名	ヨ	ミ	市町村	種別	巻	地図番号	遺跡番号	台帳頁	備考
野田	ノ	タ	野田	塚	1	5 83	3	定	指
小八	コ	ハチ	成田	跡	1	22 42	51	定	指
藤原	フジ	ノ	成田	塚	1	25 82	43	定	指
飯飯	イ	ヒ	習志野	跡	1	31 13	112	定	指
飯飯	イ	ヒ	志志	跡	1	31 13	87	定	指
飯飯	イ	ヒ	志志	跡	1	32 61	87	定	指
飯飯	イ	ヒ	志志	跡	1	32 63	87	定	指
飯飯	イ	ヒ	志志	跡	1	32 64	87	定	指
飯飯	イ	ヒ	志志	跡	1	32 65	87	定	指
飯飯	イ	ヒ	志志	跡	1	33 318	93	定	指
飯飯	イ	ヒ	志志	跡	2	18 12	16	定	指
飯飯	イ	ヒ	志志	跡	2	19 138	4	定	指
飯飯	イ	ヒ	志志	跡	2	34 144	86	定	指
飯飯	イ	ヒ	志志	跡	2	47 851	70	定	指
飯飯	イ	ヒ	志志	跡	2	47 851	70	定	指
飯飯	イ	ヒ	志志	跡	2	47 898	71	定	指
飯飯	イ	ヒ	志志	跡	2	47 898	71	定	指
飯飯	イ	ヒ	志志	跡	2	48 26	123	定	指
飯飯	イ	ヒ	志志	跡	2	48 1165-1	78	定	指
飯飯	イ	ヒ	志志	跡	3	51 501	17	定	指
飯飯	イ	ヒ	志志	跡	3	51 538	17	定	指
飯飯	イ	ヒ	志志	跡	3	52 147	17	定	指
飯飯	イ	ヒ	志志	跡	3	59 44	17	定	指
飯飯	イ	ヒ	志志	跡	3	61 18	96	定	指
飯飯	イ	ヒ	志志	跡	3	61 31	99	定	指
飯飯	イ	ヒ	志志	跡	3	62 86	101	定	指
飯飯	イ	ヒ	志志	跡	3	62 47	79	定	指
飯飯	イ	ヒ	志志	跡	3	62 48	79	定	指
飯飯	イ	ヒ	志志	跡	3	62 54	79	定	指
飯飯	イ	ヒ	志志	跡	3	62 55	79	定	指
飯飯	イ	ヒ	志志	跡	3	63 261-1	91	定	指
飯飯	イ	ヒ	志志	跡	3	68 208	103	定	指
飯飯	イ	ヒ	志志	跡	3	61 18	96	定	指
飯飯	イ	ヒ	志志	跡	3	61 31	99	定	指
飯飯	イ	ヒ	志志	跡	3	62 86	101	定	指
飯飯	イ	ヒ	志志	跡	3	62 47	79	定	指
飯飯	イ	ヒ	志志	跡	3	62 48	79	定	指
飯飯	イ	ヒ	志志	跡	3	62 54	79	定	指
飯飯	イ	ヒ	志志	跡	3	62 55	79	定	指
飯飯	イ	ヒ	志志	跡	3	63 261-1	91	定	指
飯飯	イ	ヒ	志志	跡	3	68 208	103	定	指